

カテゴリ	チェック項目 【SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項(例)】	期待 レベル	・環境 ・社会 ・経済 の種別	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
12	【エネルギー】 ・自社のエネルギー使用量を把握し、エネルギー利用の効率化を進めている	基本	環境	CO2チェックシートを用いて毎月の電力使用量と料金を詳細に記録している。現場にはワット表示器を設置し、電力の使用状況(W数)や月別使用量のグラフを「いつでも誰でも確認できる状態」にしている。 このようにエネルギー使用の透明性を高めることで、従業員の節電意識の向上に繋がっている。あらかじめ設定した上限値を超えてプザーで警告が出た際には、担当者の指示により即座に節電行動を取ることで、使用電力のピーク抑制と効率化を実施している。 効率化の具体的な取組として、精密作業用の拡大鏡および工場・事務所の主要照明は既にLED化を完了している。 空調負荷を低減するため、夏季には天井裏ファンによる熱気排出、冬季には会社支給の防寒着着用による暖房温度の抑制など、季節に応じた工夫を徹底している。 現在は、残る倉庫の照明についても【予定】LEDへの変更を進めている。また、給湯室等の火気を廃止してヒーターを導入することで、熱効率の向上と夏季の室温上昇抑制を図っている。 さらに、全ての部屋に温度計を設置し、その都度、室温を直接確認しながらエアコンの設定温度を調節することで、全従業員で無駄のない温度管理を実践している。あわせて、窓へのブラインド設置の検討や、長期休暇・夏場の温水器等の電源オフ、こまめな消灯や人感センサー付きLED照明の導入にも取り組んでおり、設備改善と日々の細やかな運用の両面から、エネルギー利用の効率化を追求している。								○						○					
13	【温室効果ガス】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、削減を進めている	基本	環境	CO2チェックシートを活用し、毎月の電力使用量から温室効果ガスの排出量を算定・記録することで、排出実態を正確に把握している。 また、現場にはワット表示器を設置し、電力使用状況(W数)の透明性を高めることで、従業員全体の節電意識の向上に繋がっている。あらかじめ設定した上限値を超えてプザーで警告が出た際には、担当者の指示により即座に節電行動を取ることで、使用電力のピーク抑制と温室効果ガスの排出削減に直接つながっている。 具体的な削減対策として、拡大鏡や主要照明のLED化が完了し、人感センサー付き照明も積極的に取り入れ、電力消費に伴う温室効果ガスの排出抑制に努めている。 空調効率向上のため、夏季の天井裏ファンによる排熱、冬季の会社支給の防寒着着用、倉庫への温水器設置による適切な温度管理を徹底している。また、給湯室等の火気を廃止してヒーターを導入することで、熱効率の向上と夏季の室温上昇抑制を図り、エネルギー由来の温室効果ガス削減を実践している。 さらに、窓への【予定】ブラインド設置による断熱効果向上に向けた検討に加え、長期休暇中の電源オフやこまめな消灯を習慣化している。あわせて、段ボールや紙類などの資源リサイクルを徹底し、廃棄物を減らすこととして焼却せず資源として再管理させることで、社会全体の温室効果ガス排出抑制に貢献している。現在はさらなる削減策に向け「CO2フリー電力」への切り替えを選定中であり、把握・抑制・転換の多角的なアプローチにより、温室効果ガスの削減を継続している。														○	○				
14	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の削減及び適切な使用に努めている	基本	環境	洗浄剤をトリクロロエチレンからアブゾールへ変更し、有害性の低減を図っている。現在は、さらに有害物質が微量、あるいはフリーの洗浄剤への【予定】切り替えを検討しており、化学物質の使用量そのものの削減に努めている。 「洗浄作業手順書」に基づき、自動運転による洗浄時間を厳格に管理することで、洗浄剤の過剰な使用や揮発ロスを抑制しています。また、使用場所を限定し、有資格者(有機溶剤作業主任者・危険物取扱者)の監督のもとで適正に使用している。 SDS(安全データシート)を用いて成分を把握し、廃棄については「廃棄物管理手順書」に則り、一般排水と分離して専門業者へ委託処理している。過剰在庫を持たない運用により、期限切れ廃棄の発生も防いでいる。			○				○					○	○						
15	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性及生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本	環境	油污れを拭き取ってから手洗いの習慣を徹底し、ウエスや作業着は専門業者による定期洗浄を活用することで、排水の質を維持し、水生生態系の保全に努めている。「廃油取扱手順書」および「廃棄物管理手順書」を整備し、ゴミの分別管理による環境流出防止を組織的に実施している。 「有機溶剤作業主任者」を決め、専門知識を持つ有資格者(危険物取扱者)を配置。法令を遵守した適切な管理体制を構築している。 また、万が一の漏洩事故などに備えた対応手順を整備しており、トラブルが発生した際にも、速やかに関係各所へ状況を報告・公開できる連絡体制(対応手順)を整えている。								○							○				
16	【水の管理】 ・自社の水の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に努めている	応用	環境	自社の水利用状況を数値で適切に把握し、無駄のない利用と効率化に努めている。CO2チェックシートを活用し、毎月の水使用量を正確に把握・記録しています。過去のデータと比較して異常な変動がないかを監視し、水資源を適切に管理する体制を構築している。 自社内での大量の水を必要とする洗濯作業等は行わず、専門業者によるレンタル循環システム(作業着・ウエス等)を活用することで、社内での水消費を最小限に抑えている。							○												
17	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001または同等の環境マネジメント規格を取得している	応用	環境	ISO14001-2015年版を2005年に取得済みで、現在も次回更新に向けて進んでいる。			○				○	○				○	○	○	○				
18	【環境情報開示】 ・自社の環境の取り組みに関する情報を収集し、開示している	応用	環境	顧客からの要求や社会的な要請に基づき、製品の環境情報(RoHS・SDS等)をその都度、素材メーカーより収集・確認した上で、適切に開示しています。CO2チェックシートを用いて、電気や水の使用量など自社の環境負荷を継続的に記録している。データを蓄積しておくことで、取引先からの環境調査や情報開示の求めがあった場合に対し、客観的な数値に基づいて回答できる体制を整えている。													○						

